

(5) 営業用トラック、自家用トラックの利用状況

ここでは、トラック輸送における営業用トラックと自家用トラックの利用状況（分担率の変化）についてみる。なお、以下の分析における輸送機関分類は、95年調査の分類に合わせたものであり、2000年調査において、代表輸送機関としてトレーラーを利用している貨物は一車貸切に、また、フェリーを利用している貨物は、出荷時に利用した輸送機関（自家用トラック、宅配便等混載、一車貸切のいずれか）に統合している。

1) 営業用トラック・自家用トラックの分担率の動向

「3日間調査」において、代表輸送機関としてトラックを利用した貨物は2,317万トンである。このうち営業用トラックを利用したのは62.0%（宅配便等混載：3.7%、一車貸切58.3%）、自家用トラックは38.0%である。95年調査と比較すると、営業用トラックのシェアが4.1ポイント（宅配便等混載：0.6ポイント、一車貸切：3.5ポイント）拡大している（図3-3-31）。

ちなみに、道路交通センサス（99年調査）では、営業用貨物車：60.0%、自家用貨物車：38.2%（除く軽貨物車）の分担率となっており、営業用貨物車のシェアは94年調査と比較して、8.0ポイント拡大している（表3-3-5）。

また、総流動（自動車輸送統計）では、2000年度の営業用トラックのシェアがトン数ベースで50.8%、トンキロベースで81.6%であり、95年度と比較すると各々6.8ポイント、7.1ポイントシェアが拡大している（表3-3-6）。

このように、本調査の結果および他の統計データからみて、トラック輸送の営自転換は、着実に進展しているといえる。

表3-3-5 道路交通センサスによる車種別貨物量の推移

（単位：千トン/日，%）

車種	94年調査		99年調査		増減量	増減率
		構成比		構成比		
小型貨物車	1,938.3	9.7%	1,334.9	7.5%	-603.4	-31.1%
普通貨物車	7,188.6	36.0%	5,439.3	30.6%	-1,749.3	-24.3%
自家用貨物車	9,126.9	45.7%	6,774.2	38.2%	-2,352.7	-25.8%
小型貨物車	198.0	1.0%	132.1	0.7%	-65.9	-33.3%
普通貨物車	10,190.9	51.0%	10,520.1	59.3%	329.2	3.2%
営業用貨物車	10,388.9	52.0%	10,652.2	60.0%	263.3	2.5%
軽貨物車	464.6	2.3%	327.9	1.8%	-136.7	-29.4%
合計	19,980.3	100.0%	17,754.3	100.0%	-2,226.1	-11.1%

表3 - 3 - 6 総流動ベースでみたトラック輸送における営自分担率

		95年度		2000年度		増減量	増減率
			構成比		構成比		
輸送トン数 (千トン)	自家用貨物車	3,369,504	56.0%	2,840,923	49.2%	-528,581	-15.7%
	営業用貨物車	2,647,067	44.0%	2,932,696	50.8%	285,629	10.8%
	計	6,016,571	100.0%	5,773,619	100.0%	-242,952	-4.0%
輸送トコ (百万トコ)	自家用貨物車	71,558	24.3%	57,585	18.4%	-13,973	-19.5%
	営業用貨物車	223,090	75.7%	255,533	81.6%	32,444	14.5%
	計	294,648	100.0%	313,118	100.0%	18,471	6.3%
実車キ口 (百万キ口)	自家用貨物車	53,623	56.2%	48,995	49.3%	-4,628	-8.6%
	営業用貨物車	41,826	43.8%	50,321	50.7%	8,495	20.3%
	計	95,449	100.0%	99,316	100.0%	3,867	4.1%

資料：「自動車輸送統計」による

2) 産業業種別にみた営自分担率

営業用トラックと自家用トラックの分担率を産業別にみると、製造業では営業用トラックのシェアは65.0%であり、95年調査と比較すると、3.0ポイントシェアが拡大している。業種別にみると、16業種で営業用トラックのシェアが80%以上である。しかし、最も流動量が多い窯業・土石製品製造業では、自家用トラック利用率の高い生コンクリート製造業が含まれていることもあり、営業用トラックのシェアが45.5%と低く、これが営業用トラックのシェアの下押し要因となっている。ちなみに、窯業・土石製品製造業を除いた営業用トラックのシェアは85.2%となり、95年調査と比較するとシェアは5.9ポイントの拡大となる。

卸売業では、営業用トラックのシェアは45.7%にとどまっている。95年調査と比較すると、1.7ポイントシェアが低下しており、90年 95年 2000年と営業用トラックのシェアが低下傾向にある。業種別にみると、最も流動量が多い建築材料卸売業における営業用トラックのシェアが36.6%と低く、他の業種においても営業用トラックのシェアが80%以上なのは、繊維品卸売業と衣服・身の回り品卸売業のみである。

鉱業は、営業用トラックのシェアは52.3%にとどまっているものの、95年調査と比較すると、シェアは13.6ポイント高まっている。一方、倉庫業は営業用トラックのシェアが94.5%と極めて高い値になっている（図3-3-31，表3-3-7）。

このように、建設関連の貨物を取り扱う業種では、他の業種に比べて営業用トラックのシェアが低い傾向にあり、建設関連貨物を取り扱う業種を除けば、トラック輸送における営自転換は進展していることがうかがえる。

図3 - 3 - 31 産業別にみた営業用トラック、自家用トラック分担率

(3日間調査 単位：%)

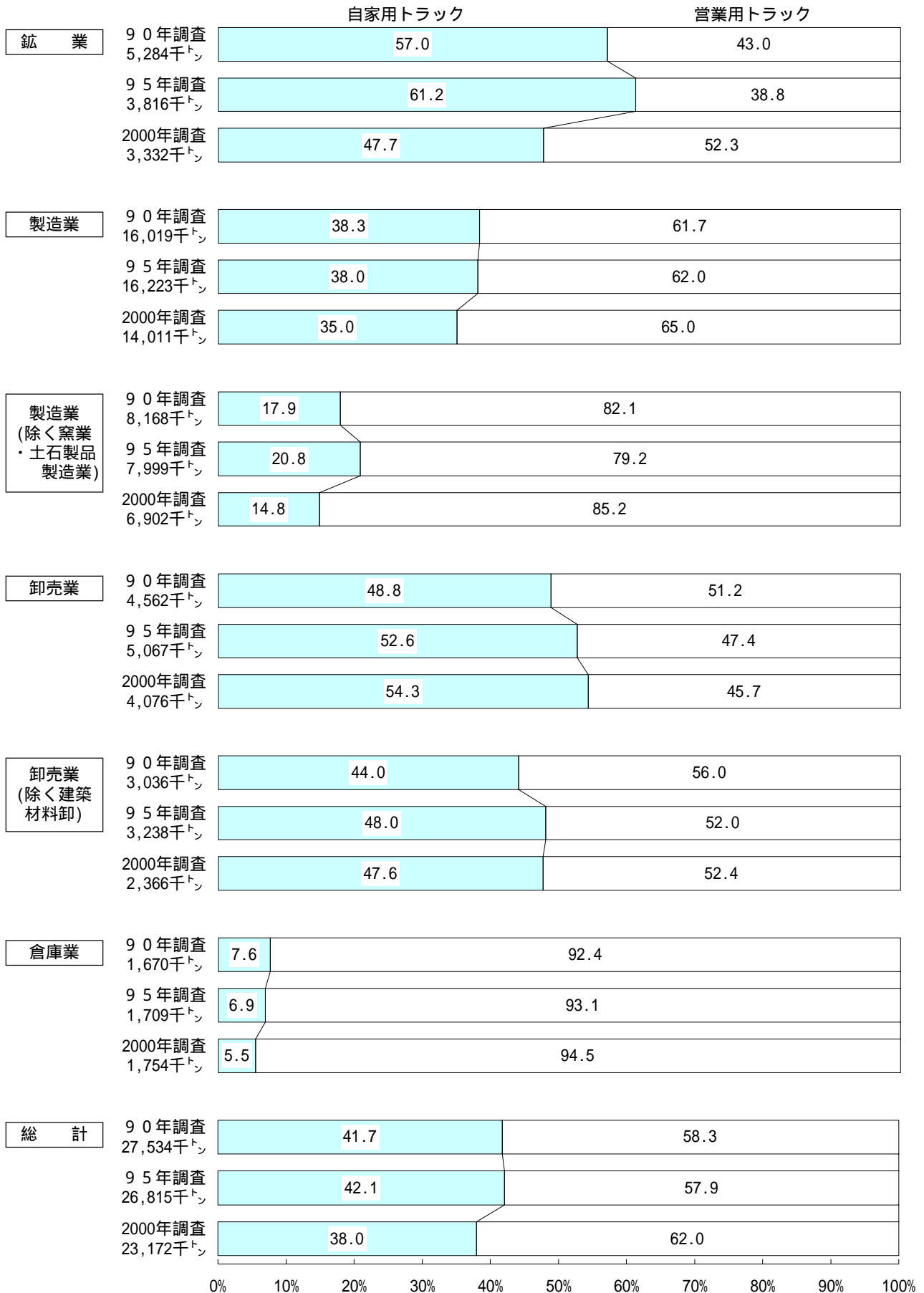


表3-3-7 トラック輸送における営業用トラックのシェア（製造業・卸売業）

（3日間調査 単位：％）

産 業・業 種	95年調査			2000年調査			シェア の変化
	宅配便 等混載	一車貸切	営業用 トラック(計)	宅配便 等混載	一車貸切	営業用 トラック(計)	
ゴ ム 製 品	12.4%	75.5%	87.9%	16.4%	82.4%	98.8%	10.9%
化 学	9.1%	84.1%	93.2%	7.8%	89.7%	97.6%	4.3%
飲料・飼料・たばこ	2.9%	87.3%	90.1%	4.0%	89.8%	93.8%	3.7%
非 鉄 金 属	5.3%	79.2%	84.5%	6.8%	86.2%	93.0%	8.4%
なめし革・同製品・毛皮	57.6%	25.7%	83.4%	80.5%	11.2%	91.7%	8.3%
パルプ・紙・紙加工品	4.0%	80.1%	84.2%	4.8%	86.8%	91.6%	7.4%
石油製品・石炭製品	0.7%	71.7%	72.4%	0.0%	90.7%	90.7%	18.3%
織 維	33.5%	46.2%	79.7%	30.5%	57.5%	88.1%	8.4%
プラスチック製品	15.0%	69.5%	84.5%	19.0%	67.3%	86.3%	1.8%
食 料 品	8.6%	64.8%	73.4%	11.6%	73.0%	84.6%	11.2%
鉄 鋼	0.6%	88.6%	89.2%	1.8%	82.7%	84.5%	-4.7%
その他の製造業	22.4%	56.7%	79.1%	19.7%	64.6%	84.3%	5.2%
精密機械器具	23.3%	54.6%	77.9%	26.0%	56.9%	82.9%	4.9%
出版・印刷	10.3%	69.1%	79.4%	11.7%	71.1%	82.8%	3.4%
輸送用機械器具	2.0%	84.3%	86.3%	2.8%	79.5%	82.3%	-4.0%
衣服・その他繊維製品	49.6%	25.9%	75.5%	54.1%	27.4%	81.5%	6.0%
電気機械器具	7.5%	74.1%	81.6%	16.3%	63.5%	79.7%	-1.8%
一般機械器具	8.4%	68.6%	77.0%	12.0%	66.6%	78.6%	1.5%
家具・装備品	6.8%	63.0%	69.8%	16.7%	60.8%	77.5%	7.7%
金属製品	3.7%	65.7%	69.3%	8.1%	59.9%	68.0%	-1.3%
木材・木製品	2.5%	41.9%	44.4%	2.8%	60.7%	63.5%	19.0%
窯業・土石製品	0.6%	44.6%	45.2%	0.9%	44.6%	45.5%	0.3%
製造業（計）	3.0%	59.0%	62.0%	3.9%	61.1%	65.0%	3.0%
製造業(計:除く窯業土石)	5.4%	73.8%	79.2%	7.0%	78.2%	85.2%	5.9%
衣 服・身の回り品	85.7%	8.1%	93.8%	83.7%	8.0%	91.7%	-2.1%
織 維 品	54.0%	15.9%	69.9%	83.0%	6.5%	89.6%	19.6%
家具・建具・じゅう器	15.7%	40.0%	55.7%	26.2%	39.9%	66.1%	10.4%
医薬品・化粧品	18.5%	44.9%	63.4%	16.7%	48.6%	65.4%	1.9%
機 械 器 具	17.9%	47.9%	65.9%	20.4%	41.5%	61.9%	-3.9%
その他の卸売業	7.9%	41.7%	49.5%	18.6%	40.3%	59.0%	9.4%
食 料 ・ 飲 料	4.4%	42.5%	46.9%	6.0%	46.3%	52.3%	5.5%
鋳物・金属材料	3.3%	55.8%	59.1%	1.9%	49.7%	51.7%	-7.4%
農畜産物・水産物	4.8%	43.3%	48.1%	4.0%	46.0%	50.0%	2.0%
再 生 資 源	0.1%	48.8%	48.8%	0.0%	45.6%	45.6%	-3.3%
建 築 材 料	1.7%	37.5%	39.2%	0.8%	35.7%	36.6%	-2.7%
化 学 製 品	11.8%	38.6%	50.4%	6.3%	29.6%	35.9%	-14.6%
各 種 商 品	2.2%	2.7%	4.9%	0.3%	27.5%	27.8%	22.9%
卸 売 業 （ 計 ）	5.0%	42.4%	47.4%	4.9%	40.9%	45.7%	-1.7%
卸売業(計:除く建築材料)	6.9%	45.1%	52.0%	7.8%	44.5%	52.4%	0.4%

注：業種の並びは2000年調査で営業用トラック（計）のシェアが大きい順。

3) 品類品目別にみた分担率

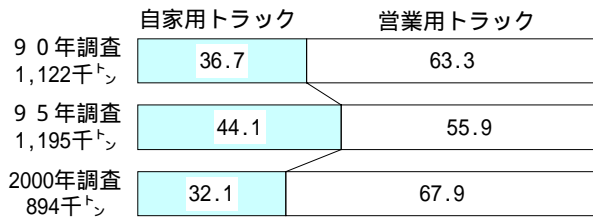
営業用トラック、自家用トラックの分担率を品類別にみると、金属機械工業品、軽工業品、雑工業品では、営業用トラックのシェアが70%を超えている。一方で、鉱産品は49.4%、化学工業品は55.8%と、建設関連の品目を包含する品類では、営業用トラックのシェアが他の品類よりも低くなっている(図3-3-32)。

具体的に品目別にみると、3日間流動量の上位2品目である砂利・砂・石材、生コンクリートは、営業用トラックのシェアが各々44.8%、28.3%にとどまっている。また、製材、原木など他の建設関連貨物も、建設関連以外の貨物に比較して営業用トラックのシェアは低い。ちなみに、砂利・砂・石材と生コンクリートを除いた貨物における営業用トラックのシェアは77.5%となり、全貨物よりも15.5ポイントもシェアが大きくなっている。ただし、建設関連貨物も95年調査と比較すると、営業用トラックのシェアは着実に拡大している(表3-3-8)。

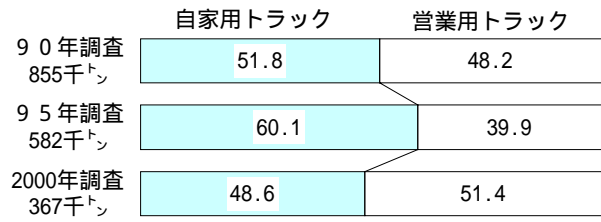
図3 - 3 - 32 品類別にみた営業用トラック、自家用トラック分担率

(3日間調査 単位：%)

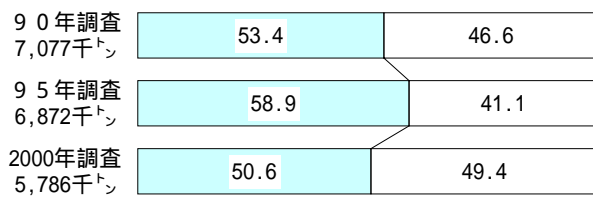
農水産品



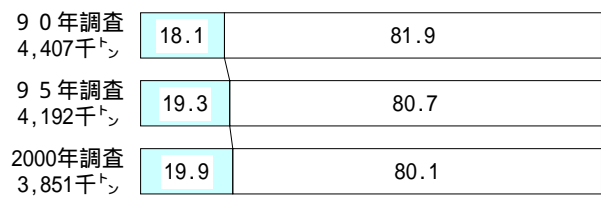
林産品



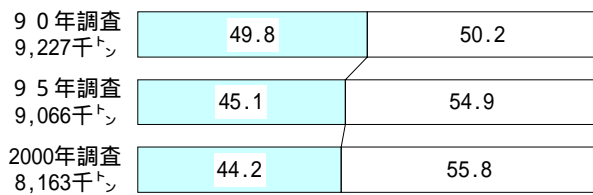
鉱産品



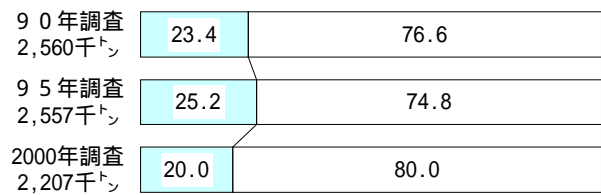
金属機械工業品



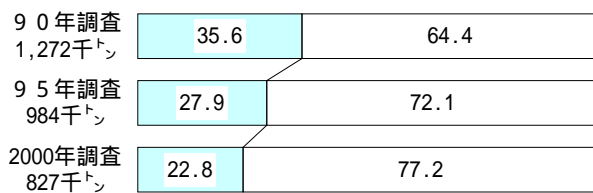
化学工業品



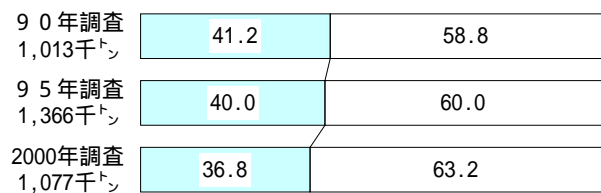
軽工業品



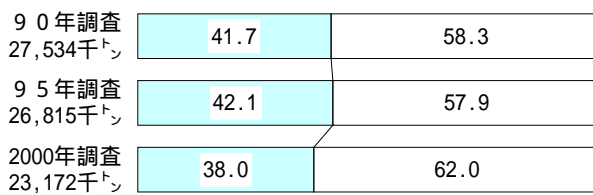
雑工業品



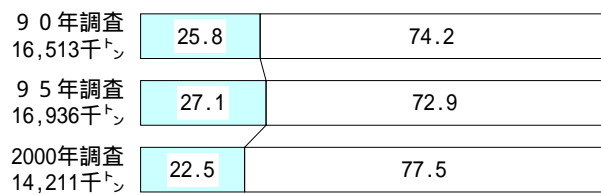
特殊品



合計



合計(生コン・砂利砂を除く)



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

表3-3-8 品目別にみたトラック輸送における営業用トラックのシェア

(3日間調査 単位：%)

	95年調査			2000年調査			シェアの 変化
	宅配便 等混載	一車貸切	営業用 トラック(計)	宅配便 等混載	一車貸切	営業用 トラック(計)	
揮発油	0.1%	90.9%	91.0%	0.0%	99.3%	99.3%	8.3%
重油	0.4%	69.6%	70.0%	0.2%	97.5%	97.7%	27.6%
ゴム製品	12.7%	69.7%	82.4%	13.6%	82.4%	96.0%	13.6%
動植物性飼肥料	0.6%	85.4%	86.0%	1.2%	94.3%	95.5%	9.6%
その他の石油	5.7%	75.5%	81.2%	0.3%	93.6%	93.9%	12.8%
麦	0.1%	93.0%	93.1%	4.6%	88.9%	93.5%	0.4%
織物	41.9%	40.6%	82.6%	40.4%	51.3%	91.8%	9.2%
動植物性油脂	5.3%	77.3%	82.6%	3.7%	87.8%	91.5%	8.9%
衣服・身の回り品	62.5%	24.8%	87.2%	68.8%	22.5%	91.3%	4.1%
その他の化学工業品	17.8%	70.3%	88.1%	14.9%	75.8%	90.7%	2.6%
非鉄金属	4.3%	69.9%	74.1%	7.1%	83.5%	90.6%	16.4%
雑穀・豆	1.9%	80.5%	82.5%	2.4%	88.0%	90.3%	7.8%
化学肥料	1.1%	91.1%	92.2%	2.7%	87.4%	90.1%	-2.1%
染料・顔料・塗料	17.8%	60.5%	78.3%	12.2%	77.4%	89.6%	11.3%
自動車部品	3.2%	80.8%	84.0%	5.3%	83.9%	89.2%	5.3%
合成樹脂	11.8%	75.0%	86.9%	13.3%	75.1%	88.3%	1.5%
鉄鋼	0.6%	85.8%	86.4%	1.1%	85.0%	86.1%	-0.3%
陶磁器	19.1%	56.2%	75.3%	6.9%	79.2%	86.1%	10.8%
自動車	0.3%	91.1%	91.4%	1.0%	84.6%	85.6%	-5.8%
ガラス・ガラス製品	2.9%	80.0%	82.9%	3.7%	81.2%	84.9%	2.0%
石灰石	0.0%	56.3%	56.3%	0.0%	84.0%	84.0%	27.6%
紙	2.1%	88.0%	90.1%	3.1%	80.6%	83.6%	-6.5%
米	0.1%	61.1%	61.2%	1.8%	81.6%	83.4%	22.2%
その他の日用品	28.6%	50.2%	78.9%	28.4%	51.4%	79.8%	1.0%
電気機械	10.6%	69.0%	79.6%	20.3%	59.5%	79.7%	0.1%
その他の窯業品	4.2%	77.7%	82.0%	1.2%	77.1%	78.3%	-3.6%
その他の食料工業品	8.6%	58.2%	66.8%	11.5%	66.8%	78.3%	11.5%
化学薬品	4.4%	80.0%	84.4%	3.8%	74.2%	78.0%	-6.4%
書籍・印刷物・記録物	9.9%	71.7%	81.6%	11.5%	66.3%	77.8%	-3.9%
その他の機械	6.5%	66.4%	72.9%	14.2%	63.4%	77.7%	4.7%
産業機械	6.7%	71.2%	78.0%	11.0%	66.1%	77.1%	-0.9%
その他の農産品	4.9%	21.7%	26.6%	5.4%	71.2%	76.6%	50.0%
その他の輸送用容器	4.1%	54.5%	58.7%	3.9%	72.5%	76.4%	17.8%
その他の製造工業品	21.9%	54.1%	76.0%	16.9%	59.5%	76.4%	0.4%
家具・装備品	6.2%	68.8%	74.9%	16.7%	59.3%	76.1%	1.1%
セメント	0.0%	82.7%	82.7%	0.3%	75.7%	75.9%	-6.8%
飲料	3.6%	67.6%	71.2%	4.5%	71.5%	75.9%	4.7%
その他の非金属鉱物	0.5%	68.6%	69.1%	0.5%	74.8%	75.3%	6.1%
セメント製品	0.7%	65.6%	66.4%	2.5%	71.5%	74.1%	7.7%
その他の石油製品	1.2%	68.1%	69.4%	0.1%	72.1%	72.2%	2.9%
水産品	20.5%	43.4%	63.9%	19.2%	48.1%	67.3%	3.4%
木製品	3.3%	51.5%	54.8%	3.5%	61.6%	65.1%	10.4%
その他の畜産品	5.9%	50.8%	56.8%	9.3%	54.2%	63.5%	6.7%
金属製品	5.0%	66.3%	71.3%	7.5%	52.8%	60.3%	-11.0%
LNG・LPG	0.8%	53.7%	54.5%	0.0%	60.2%	60.2%	5.7%
原木	0.1%	49.1%	49.2%	0.1%	60.0%	60.1%	10.9%
取り合せ品	4.0%	27.2%	31.3%	4.5%	55.6%	60.1%	28.8%
野菜・果物	2.2%	45.4%	47.5%	5.2%	45.3%	50.5%	3.0%
その他くずもの	0.1%	63.6%	63.7%	0.7%	44.8%	45.5%	-18.2%
製材	0.5%	38.3%	38.8%	2.5%	43.0%	45.5%	6.7%
砂利・砂・石材	0.0%	36.1%	36.1%	0.4%	44.4%	44.8%	8.6%
金属くず	0.0%	44.5%	44.5%	0.1%	40.4%	40.4%	-4.1%
生コンクリート	0.0%	26.5%	26.5%	0.0%	28.3%	28.3%	1.8%

注：2000年調査で流動量5万ト以上である53品目が対象。

品目の並びは2000年調査で営業用トラック(計)のシェアが大きい順。

4) 流動ロット階層別にみた分担率

営業用トラック、自家用トラックの分担率は、流動ロット階層別にみると、階層によって異なった態様がみられる(図3-3-33)。

最も営業用トラックのシェアが高いのは、流動ロットが10~30トンの階層で、シェアは70%を超えており、ロットがまとまると一車貸切(トレーラーを含む)の利用比率が高くなる傾向がうかがえる。一方、流動ロットが30トン以上になると、品目的に砂利・砂・石材のウェイトが高くなることから(表3-3-9)、営業用トラックのシェアはやや低下しており、100トン以上ではシェアは約50%にとどまる。しかし、95年~2000年の推移をみると、この流動ロットが大きい階層でも、営業用トラックのシェアは着実に拡大している。

0.1トン~5トンの階層では、営業用トラックのシェアが60%弱となり、流動ロットが大きい階層に比べて自家用トラックの利用比率が高くなる。ちなみに、道路交通センサスでみると、小型貨物車による輸送量のシェアでは自家用が圧倒的に高くなっていることから、とりわけ小型貨物車に適合する流動ロットの貨物では、自家用トラックの利用比率が高いものと推察される(表3-3-10)。ただし、小ロット貨物でも、流動ロットが0.1トン未満になると、宅配便等混載の利用に適合する貨物が多くなるため(表3-3-11)、営業用トラックのシェアは70%近くとなっている。

表3-3-9 流動ロット階層別にみたトラック輸送における砂利・砂・石材の占める割合
(3日間調査 単位:%)

流動ロット階層	5ト未満	5~10ト	10~30ト	30~100ト	100ト以上
砂利・砂・石材の占める割合	4.6%	5.2%	12.0%	27.4%	40.2%

表3-3-10 車種別にみた貨物輸送量の営自分担率(道路交通センサス)

	小型車		普通車	
	94年	99年	94年	99年
自家用	90.7%	91.0%	41.4%	34.1%
営業用	9.3%	9.0%	58.6%	65.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

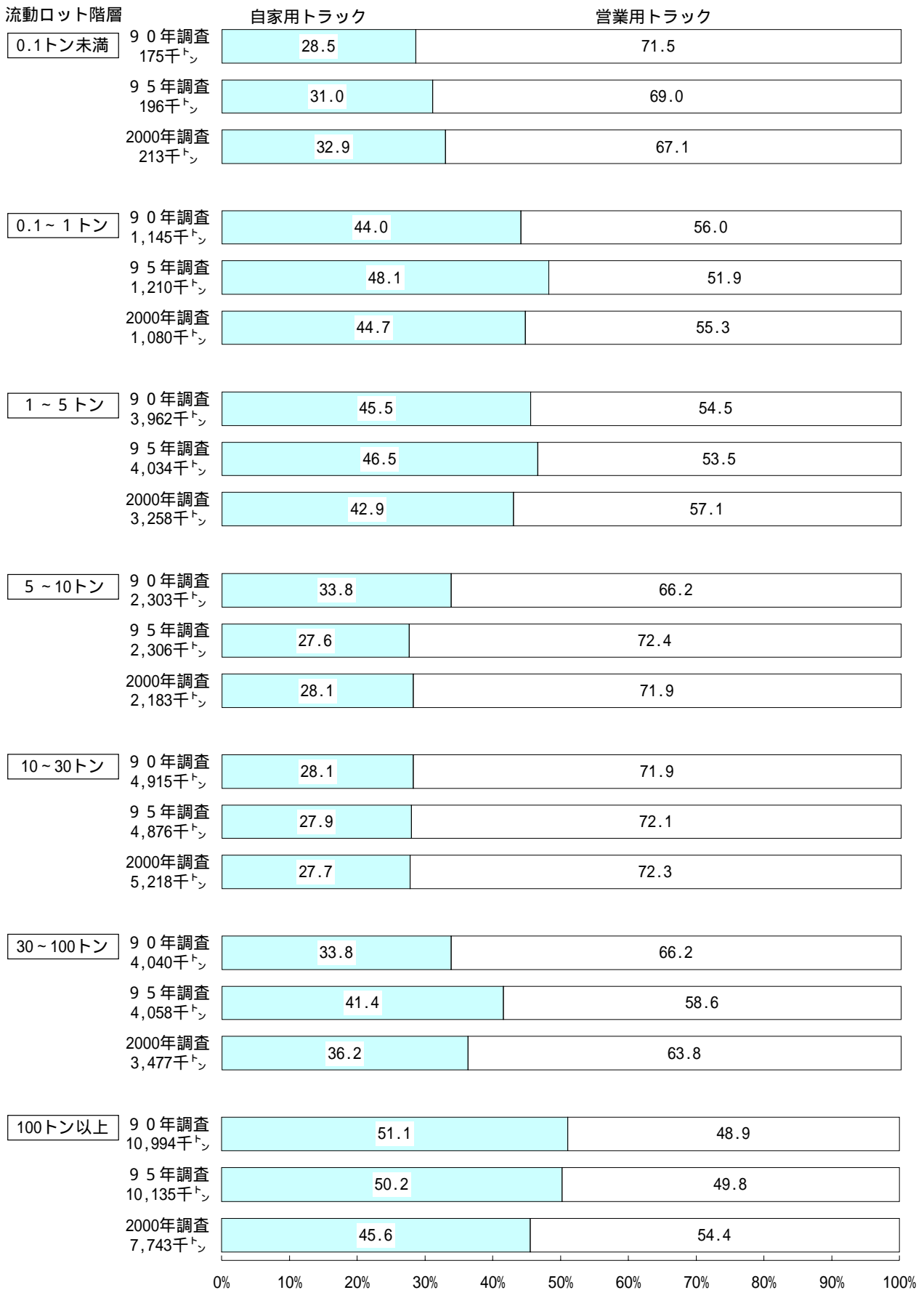
注:トンベースによる分担率

表3-3-11 流動ロット階層別にみたトラック輸送における宅配便等混載の分担率(重量ベース)
(3日間調査 単位:%)

流動ロット階層	0.1ト未満	0.1~1ト	1~5ト	5ト以上
宅配便等混載の分担率	58.4%	32.0%	8.9%	0.5%

図3-3-33 流動ロット階層別に見た営業用トラック、自家用トラック分担率

(3日間調査 単位：%)



5) 従業者規模別階層別にみた分担率

製造業と卸売業について、従業者規模階層別に営自比率をみると、製造業では従業者規模30人未満では営業用トラックのシェアは50%を割っているものの、従業者規模が大きくなるにつれ営業用トラックのシェアは高まり、100人以上では100%近いシェアとなっている。また、95年調査と比較すると、30～49人および50～99人の階層を除き、営業用トラックのシェアが拡大している。

一方、卸売業も製造業と同様に、概ね従業者規模が大きくなるにつれ営業用トラックのシェアは高くなる傾向を示しているが、各従業者規模階層とも営業用トラックのシェアは製造業より低く、大規模事業所においても営業用トラックのシェアは50%台にとどまっている。また、95年調査と比較すると、製造業と異なり、50～99人の階層を除き、営業用トラックのシェアは低下している(図3-3-34)。

このように、トラック輸送の営自転換は、全体で見ると着実に進展しているものの、卸売業や小規模事業所など配送圏域が狭い事業所においては、逆に営自転換が進展していない状況がうかがえる。

図3 - 3 - 34 従業者規模別階層別にみた営業用トラック、自家用トラック分担率

(3日間調査 単位：%)

【製造業】

【卸売業】

